

第5回 11月20日（金）

「タイ語の辞書 --- 辞書の編纂とことばの研究」

講師：峰岸真琴 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授

辞書は、その言語の単語とその意味を記録するだけでなく、言語が使われている社会や文化をさまざまな形で反映しています。外国語を学ぶ際には、文法書と辞書は必須の道具です。

東南アジア大陸部に位置するタイは、古くからインド文明の影響を受けたため、タイ語はカンボジア語、ラオス語、ビルマ語と同様、インド系の独特の文字を使用しています。ことばとしてのタイ語の特徴は、単語が活用変化をすることのない、「孤立語」といわれるタイプに属しています。この点では、中国語と似ているといえます。

このような文化的、言語的な特徴を持つタイ語の辞書は、これまでどのように編纂されてきたのでしょうか。

本講座では、タイ語の文字とことばの特徴について簡単な紹介をおこなってから、外国語としてのタイ語の辞書が、どのように編纂されてきたか、独特の文字を印刷する方法の開発の話をつなげながら、いくつかの代表的な辞書を取り上げて振り返ってみたいと思います。

また、出版のデジタル化や、インターネットに代表される web での情報発信については、タイは東南アジアでも最も進んでいる国です。これらの電子媒体によるデータを効果的に利用するために、現在進められている電子辞書の開発について、さらに電子化データを利用することで、将来どのようなタイ語の研究が可能になるかなどの見通しについてもお話ししたいと思います。